

補強土壁工法技術ノート(No.2)

【補強土壁工法の歴史】

盛土中に補強材を入れて土を補強する方法はかなり古い時代から用いられていた。例えば中国においては紀元前から葦や竹などの小枝を粗朶(そだ)状にして土構造物の補強材として利用していた。またわが国においても軟弱地盤上に盛土する場合に補強材としての粗朶を敷設する方法が江戸時代に利用されていた。

このように土の中に補強材を敷設して土自体を補強するという工法自体は新しいものではない。しかしながら、現在の補強土壁工法発展のきっかけとなったのは、1963年フランスの H.Vidal (ビダール) によって開発されてテールアルメ工法である。

ここでは国内及び海外での補強土壁工法の現在までの歴史について述べる。

期	西暦年	国内	海外	総括
第1期	1963 1971		[1963]: テールアルメ工法の開発(仏) [1971]: テールアルメ工法, コンクリートスキンの開発(仏) [1975]: テールアルメ工法, リブ付ストリップの開発(仏)	海外で補強土壁工法が開発, 施工される。国内での施工実績はない。
第2期	1972 1982	[1972]: テールアルメ工法初施工(山梨県)	[1979]: ジオグリッド開発(英)	国内で初施工。補強土壁工法としては, テールアルメ工法のみが存在する。
第3期	1983 現在	[1983]: 多数アンカー工法初施工(山口県) [1984]: ジオグリッド補強土壁工法初施工(鹿児島県) [1987]: RRR工法初施工(大阪府) [1988]: TUSS工法初施工(千葉県) [1990]: ワイヤーウォール工法初施工(兵庫県) [1991]: ウェブソル工法初施工(山口県) [1998]: アデムウォール初施工		テールアルメ工法以外の工法が開発され, 国内で施工される。現在国内では数多くの工法が競合している。

お問合せは下記まで

REECOM 株式会社 補強土エンジニアリング 〒550-0005 大阪市西区西本町1丁目6番6号(カーニープレイス西本町6F) TEL(06)6536-6711 FAX(06)6536-6713 インターネットホームページ: https://www.reecom.co.jp Eメール: info@reecom.co.jp
